

平成二十六年年度 秋季 鎌倉俳句&ハイク

季節 「秋」

期間 平成二十六年八月一日～平成二十六年十月末

投句数 二、一四四句

特選三句

天

自転車と海と私と秋晴れと

北海道札幌市東区 應武 茉里依

地

虚子眠る五山の一寺秋深む

東京都町田市 笠原 祥郎

人

長谷寺に蝉聞きながら写経する

栃木県宇都宮市 町井久美子

入選句

一般の部

鎌倉や駅の助役の水を打つ

東京都武蔵野市

池田 章子

立子師と虚子師に詣で天高し

奈良県奈良市

梅本 幸子

庭師らの帰り支度や酔芙蓉

東京都大田区

荻野 操子

白萩をこぼして抜ける宝戒寺

東京都三鷹市

小原 英之

ゆっくりと鎌倉歩く秋日和

山口県下関市

木嶋 政治

大茅の輪仕上げに御神酒御神水

神奈川県横浜市港北区

鈴木 基之

雲水と出合ふ鎌倉初時雨

埼玉県北葛飾郡

瀬戸 トメ子

石畳ゆるるき坂なす栄西忌

神奈川県横浜市戸塚区

高橋 央尚

新涼の廊下を磨く修行僧

神奈川県三浦市

秦 孝浩

本殿を抜ける風あり今朝の秋

神奈川県大和市

林 謙二

秋の海詩人になって立ち尽す

神奈川県鎌倉市

本阿弥 光敬

単線のただ真っ直に稲の秋

千葉県船橋市

前原 慶輔

秋袷大黒さんの凜として

東京都杉並区

宮本 昌子

大寺に近き老舗や夏料理

神奈川県逗子市

森澤 謙二郎

石庭の箒目白し曼珠沙華

神奈川県横須賀市

山口 義一

小谷戸なる秋の鎌倉一人旅

神奈川県横浜市青葉区

山下 省三

流鏝馬の人馬一体秋高し

神奈川県鎌倉市

米山 信夫

蟻潜る大藁草履の藁の波

神奈川県横浜市青葉区

小池 朋子

猫の目のきらきら光る良夜かな

神奈川県鎌倉市

佐藤 利一

次々にはらりと開く尾花かな

東京都大田区

山田 隆紀

(順不同)

入選句

子どもの部

かま倉でよりとも様の墓参り

埼玉県越谷市

松波 優成

あぜ道にひっそりと咲く彼岸花

埼玉県越谷市

鈴木 優美

どんぐりをひろって見たらあおかつた

神奈川県平塚市

高橋 遼光

瑞泉寺すずむしのねがすき通る

神奈川県鎌倉市

榊原 慧

かまくらはもみじがきれいきれいだな

山梨県南巨摩郡

遠藤 李夢

紅葉をそっと見守る大仏さん

千葉県鴨川市

安東 翼

みようほんじ色づいているもみじかな

千葉県鴨川市

小倉 彩雅

秋空に水族館の魚たち

神奈川県鎌倉市

片山 知香

いわしぐもそのましたにはだいぶつだ

新潟県新潟市秋葉区

榎本 恵介

さわやかな空すみわたる高德院

埼玉県深谷市

小林 未依

(順不同)